

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第67号
令和2年7月16日

平素より、皆様には福島県青少年育成県民会議の事業につきまして、温かい御支援や御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、青少年を取り巻く環境に目を向けますと、従来の社会環境の変化に加え、今般の新型コロナウイルスによる影響は大きく、より厳しさを増しています。

このようなときだからこそ、青少年が心身ともに健康で社会に参画できるよう、家庭・学校・地域において、大人が青少年の生活や考え方に理解を深め、自立を支える取組が大切であると考えます。

当県民会議は、各市町村民会議、関係機関・団体、企業、NPOの皆様との緊密な連携のもとに、青少年健全育成のために諸活動を展開してまいりますので、これまで以上に皆様の御支援、御協力をお願いいたします。



令和元年度「家庭の日」
1・2年生絵画部門最優秀賞
「ぎょうざをつくったよ」
福島市立鎌田小学校 手塚政太さん

令和2年度 福島県青少年育成県民会議について

組織

【役員】

- ・ 会長 : 内堀 雅雄[福島県知事]
- ・ 副会長 : 富田 孝志[(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構理事長]
: 小林 清美[(一財)福島県婦人団体連合会会長]
- ・ 理事 : 11名[鈴木 忠夫 常勤理事は福島県青少年会館館長と兼務]
- ・ 監事 : 2名

【会議員】

- ・ 関係行政機関、学識経験者、青少年育成団体、青少年団体、報道機関 (本年度 138団体・個人)

重点推進事項

- 1 「大人が変われば、子どもも変わる県民運動」の推進
- 2 子どもの健康と安心を地域全体で守る活動の推進
- 3 青少年関係機関・団体との連携の強化
- 4 青少年を取り巻く有害環境対策の推進
- 5 さまざまな困難を有する子ども・若者への支援

主な事業の概要

※新型コロナウイルスの感染状況により事業内容を変更する場合があります。

青少年育成セミナー

《第1回》 令和2年8月9日（日） 13:30～15:15

【若者応援】

会場：福島県青少年会館（福島市） 大研修室
演題：「古閑裕而と若者たちへの『エール』」
講師：日本大学商学部准教授 刑部 芳則 氏
定員：90名

《第2回》 令和2年9月5日（土） 13:30～15:30

【幼児教育】

会場：福島県青少年会館（福島市） 第1研修室
演題：「『幼児教育・保育』の昔と今」
講師：福島県認定こども園協会会長 学校法人まゆみ学園理事長 古渡 一秀 氏
定員：40名

《第3回》 令和2年11月28日（土） 13:30～15:15

【情報化社会】

会場：福島県青少年会館（福島市） 大研修室
演題：「有害情報から子どもを守る」～ネット・スマホをめぐる問題から～
講師：医療創生大学心理学部教授 福島県警察サイバー犯罪対策アドバイザー 中尾 剛 氏
定員：50名

《第4回》 令和3年2月13日（土） 13:30～15:15

【若者の自立支援】

会場：福島県青少年会館（福島市） 大研修室
演題：「みんなちがって みんないいⅡ」
講師：医療創生大学心理学部教授 山本 佳子 氏
定員：50名



【福島県青少年会館】



【令和元年度「第4回青少年育成セミナー」】

「大人への応援講座」開設支援事業

市町村や教育機関、青少年育成関係団体、企業等による「大人への応援講座」の開設に向けて講師を派遣する事業に取り組んでいます。（随時受付）

「家庭の日」作品コンクール

- ◇募集対象 県内在住もしくは県外に避難している小・中・高生
- ◇募集期間 令和2年6月21日（日）「家庭の日」～令和2年9月4日（金）必着
- ◇表彰 各部門で対象別に審査を行い、優秀な作品については次のとおり表彰を行います。
 - （1） 最優秀賞の受賞者には賞状及び賞品を贈呈します。
 - （2） 優秀賞または優良賞の受賞者には賞状を贈呈します。
- ◇発表 令和2年11月上旬に各報道機関に作品・氏名を発表するほか、絵画、ポスターの入賞作品は、「福島県青少年会館」（福島市黒岩）のロビーに展示します。
- ◇賞の授与 最優秀者には、令和2年11月19日（木）開催予定の「福島県青少年健全育成推進大会」の席上で賞を授与します。また、作文部門の最優秀賞受賞者には、併せて受賞作品の朗読をお願いすることとします。

「夏の思い出」ものづくり体験事業

- ◇ 対象 小学4年生以上の児童、生徒
- ◇ 開催日時 令和2年7月25日(土) 13:30~15:30
- ◇ 内容 「陶芸教室」
- ◇ 定員 20名
- ◇ 参加費 500円(教材費)



【令和元年度「陶芸教室」】

第42回少年の主張福島県大会

- ◇ 対象 中学生
- ◇ 開催日時 令和2年9月25日(金) 13:00~16:00
- ◇ 開催場所 じげんホール 住所 〒969-6292 会津美里町字新布才地1
電話 0242(55)0344
- ◇ 募集期間 令和2年6月1日(月)~8月24日(月) (必着)
- ◇ 表彰 最優秀賞1人、優秀賞5人及び優良賞10人に選ばれた者に、賞状及び賞品を授与します。
- ◇ 全国大会への出場 最優秀賞に選ばれた者は、北海道・東北ブロックで選考を受け、令和2年11月8日(日)、東京で開催予定の「第42回少年の主張全国大会」に出場します。

第43回福島県青少年健全育成推進大会

- ◇ 開催日 令和2年11月19日(木)
- ◇ 場所 とうほうみんなの文化センター
- ◇ 参加者 一般県民、県議会議員、青少年団体代表等
- ◇ 内容 表彰、朗読・発表、大会宣言の採択等



【令和元年度 福島県青少年健全育成推進大会】

福島県青少年総合相談センター等の運営

一人で悩んでいませんか?

【福島県青少年総合相談センター】

子ども・若者の問題について、幅広く相談を受け付けています。

一人で悩みを抱え込まず、お気軽にご相談ください。秘密は厳守します。相談は無料です。

相談方法：電話、面談(要予約)、メール、LINE(受付専用)、オンライン面談(要予約)

住所 960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5
(福島県青少年会館内)

TEL/FAX 024-546-0006

E-mail soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp

【発達についての専門相談】

毎月第3土曜日に実施

予約は青少年総合相談センターへ
※ 豊富な経験を持つ専門相談員が丁寧に相談に応じています。

【福島県ひきこもり支援センター】

(青少年総合相談センター併設)

相談方法：青少年総合相談センターと同じです。

※ ひきこもりの相談は、専門のスタッフが対応しています。

【連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)

TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8311

Mail f-youth@io.ocn.ne.jp HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>



所感

「7月に思う」

福島県青少年育成県民会議 常勤理事 鈴木 忠夫

今年も、いつもの暑い7月がやってきた。

この時期、いつも思い出す場所がある。全国三大提灯祭のひとつ、福島県の重要無形民俗文化財となっている提灯祭りを例大祭とする二本松神社、その社へ向かう石段を登り切ったところに佇む「随神門」（1807年再建）である。

今から152年前の7月、当地が戊辰戦争の激戦地の一つとなり、その時に西軍から打ちかけられた弾痕がこの門に生々しく残る。今も柱や梁の傷痕は歴史の確かな証として確認できる。

宮司さんの話によると、二本松藩丹羽家から家紋の使用を賜っていた二本松神社が戦火に焼かれることなく残ったのは、この神社が幕末・維新に活躍する吉田松陰、高杉晋作、三菱財閥創業者の岩崎弥太郎など多くの西軍側の若者たちが門人となり慕った安積良斎（現郡山市安積国造神社宮司の子として生まれる。）先生がかつて住み、親戚にあたる神社であることを、西軍の隊長が知るところとなり、砲撃が中止されたためだという。そのようなつながりを教えていただいた。



【二本松神社「随神門」】

この7月の戦いに、守備兵の少なかった二本松藩は、やむなく12才から23才の青少年たちを出陣させざるを得なかった。後に語られる二本松少年隊。大切な家族に見送られながら、郷土愛を胸に善戦するも、少年隊の悲劇を残して城は落ちる。

例年、7月下旬に執りおこなわれる二本松少年隊顕彰祭・墓前祭。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、墓前祭の仏事のみが小規模に営まれるとのこと。

今年の7月は、世界の若者たちが躍動するオリンピックが復興五輪として56年ぶりに東京で開催され、ソフトボール・野球の試合が予定されていた福島も大いに盛り上がるはずだった。そのオリンピックも、新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりを背景に、延期となった。

新型コロナウイルス感染症は、医療現場の混乱、経済活動の停止や教育現場の新たな対応など、各分野に計り知れない不安や影響を与えている。

この新型コロナウイルス感染拡大防止のために初めて経験した自粛生活。窮屈で不便であったが、「人は、つながることなしに、一人では生きていけない」という当然のことを改めて実感することとなった。

一方、遠隔地にいながらにして、インターネットでつながるオンラインでの会議・授業などの活用も急速にすすめられている。若者層を中心にSNSの利用も日常生活に定着し、つながるための手段が日々進化している。

今、「新しい生活様式」への移行・定着が求められている。どんなに生活が変わろうとも、どんな時代になろうとも、今までも今後も変わることがない大切なことがある。それは一人ひとりの足元にある家庭、家族、地域のよさやつながりではないだろうか。最も身近にある宝だ。ここから、子ども若者たちの豊かな未来への可能性が広がるのだとあらためて思う。